

## 2019・2020年度 学びにくさのある子どもへの指導充実事業

# 「わかった」「できた」を実感できる指導・支援をめざして



— 日野町での実践を通して —



- ▶ 問題意識・背景
- ▶ 目的・目指す姿
- ▶ 具体的取組
- ▶ 成果と課題
- ▶ 今後に向けて

日野町教育委員会事務局 学校教育課

## <現状・背景>

発達障害のある  
児童生徒の増加



つまずきのある  
児童生徒の増加



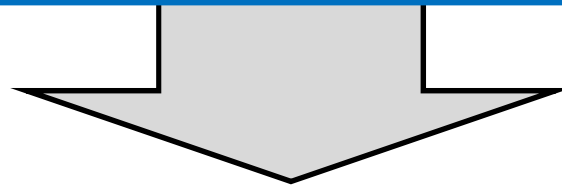
通常の学級に在籍する児童生徒の支援の場

通級による指導

別室による指導

適応指導教室

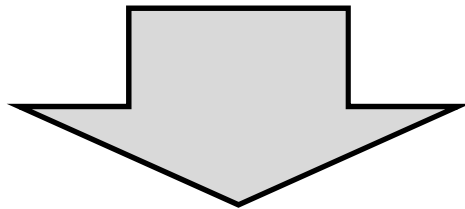
- 発達障害等に対する教員の理解を高め、専門性を向上させていく必要がある
- 個別の指導計画を効果的に活用する必要がある



学びにくさのある子どもへの指導充実  
事業に取り組む

## <目的>

本町の拠点校へ障害特性に応じた専門的な指導・支援を行うための発達障害支援アドバイザー等を派遣

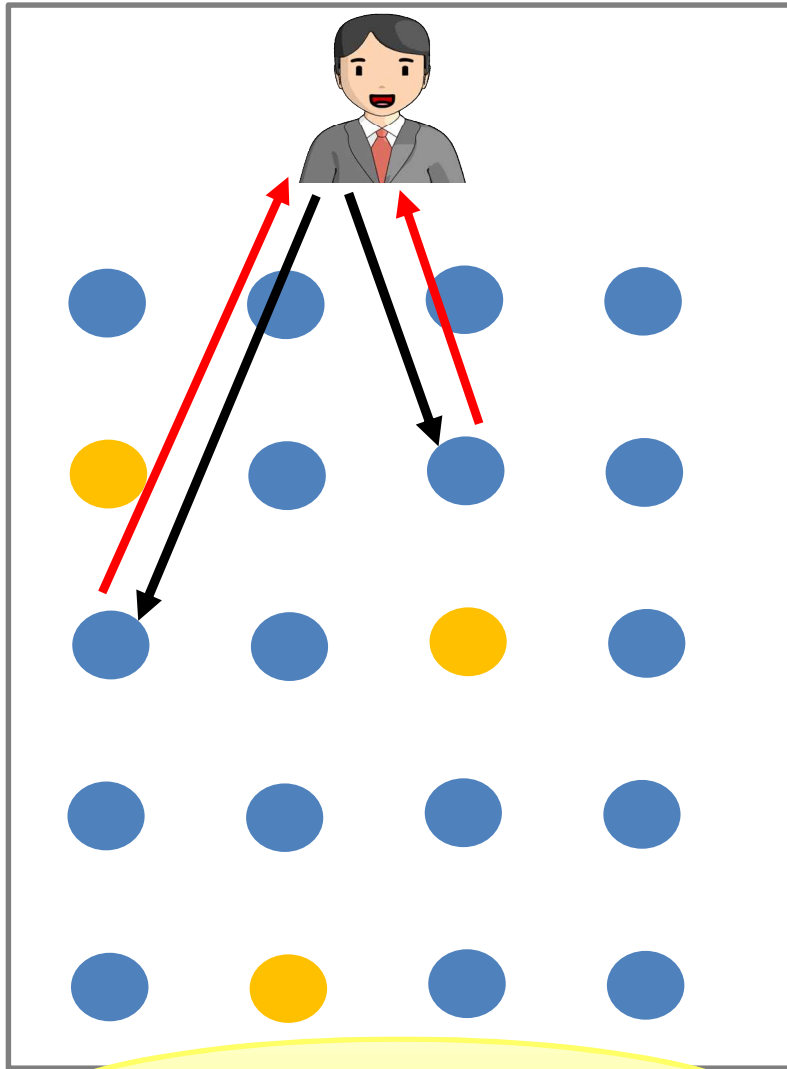


・発達障害を的確に理解し、その**特性に応じた指導の充実**を図る

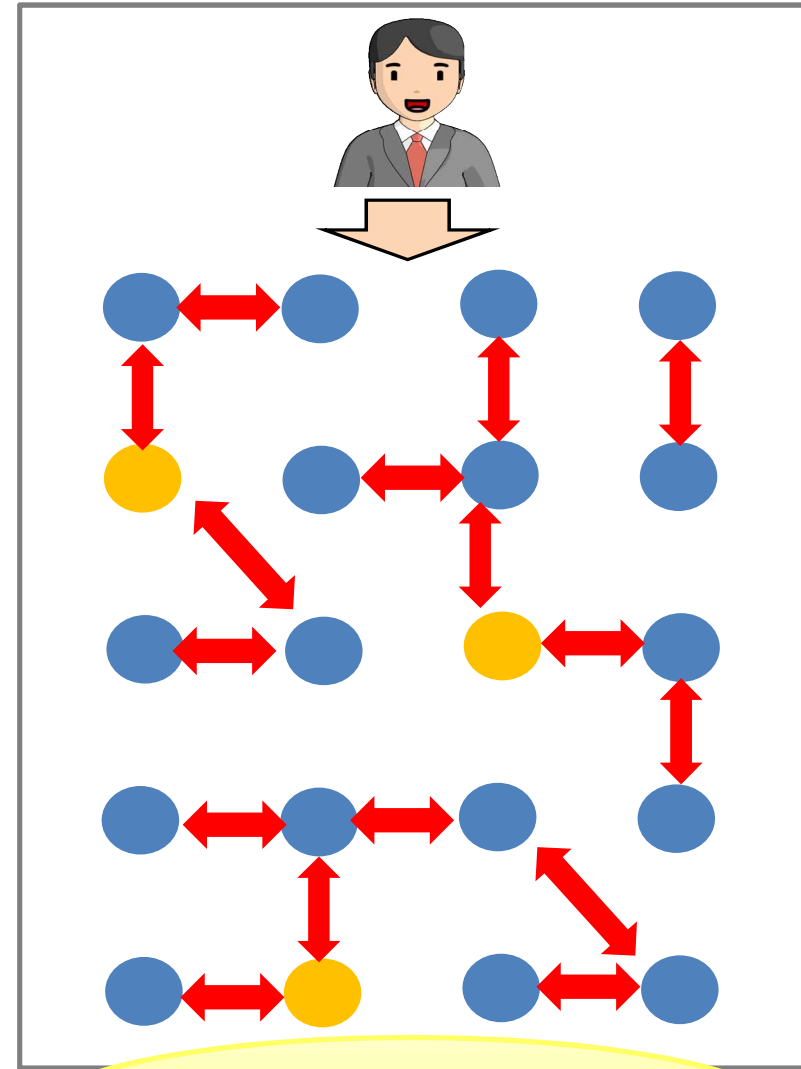
・授業のユニバーサルデザイン化(UD化)により、**分かりやすい授業への改善**を目指す

# <アドバイザーの視点>

● 学びにくさのある子ども



一斉指導



子ども同士

## <取組の様子>

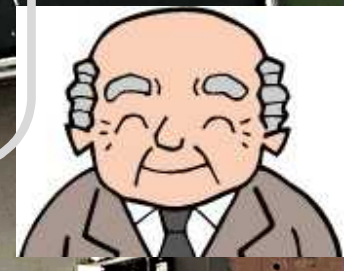
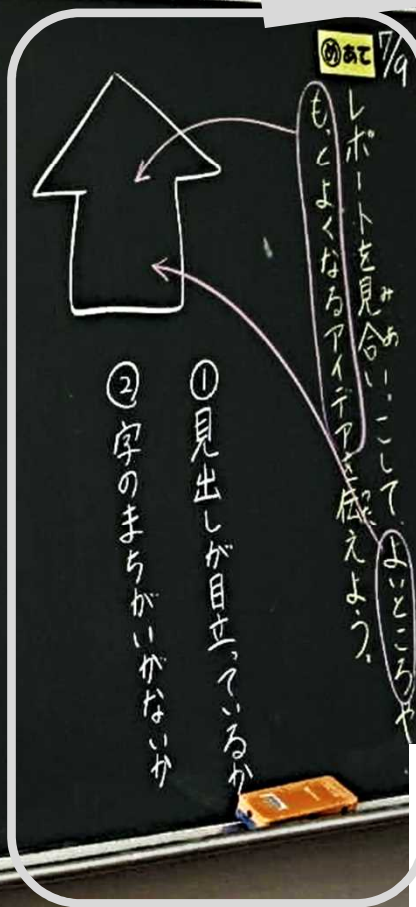
### 授業動画をもとにした懇談

授業の工夫(UD化)

個への配慮・指導

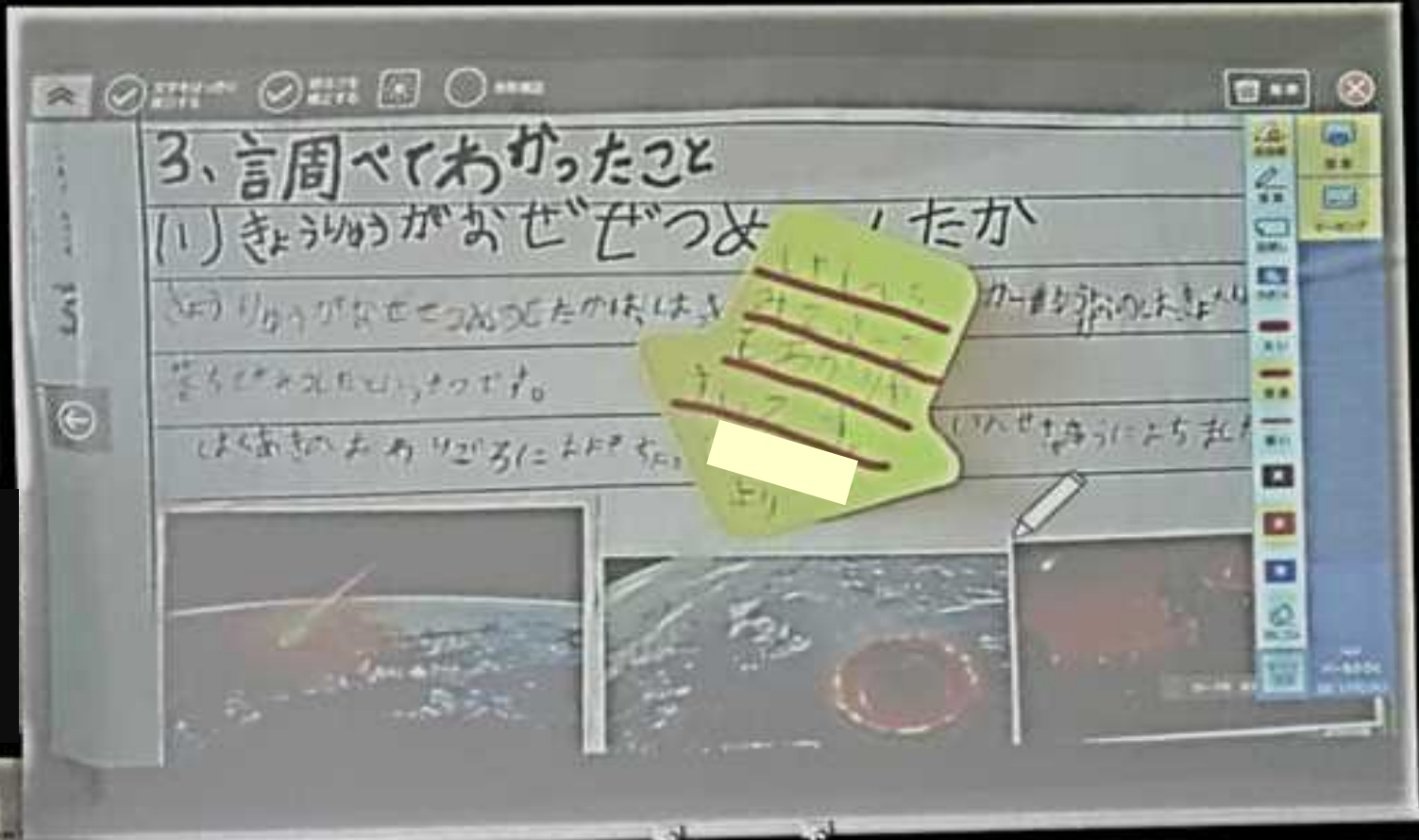
# 授業の工夫(UD化)

# めあてを分かりやすく提示

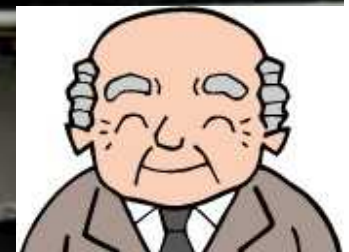


<事例> 第3学年 国語  
 レポートを読み合い、よさや改善点を出し合う

# 授業の工夫(UD化)



活動途中での気付きの紹介は効果的





## 授業動画をもとにした懇談



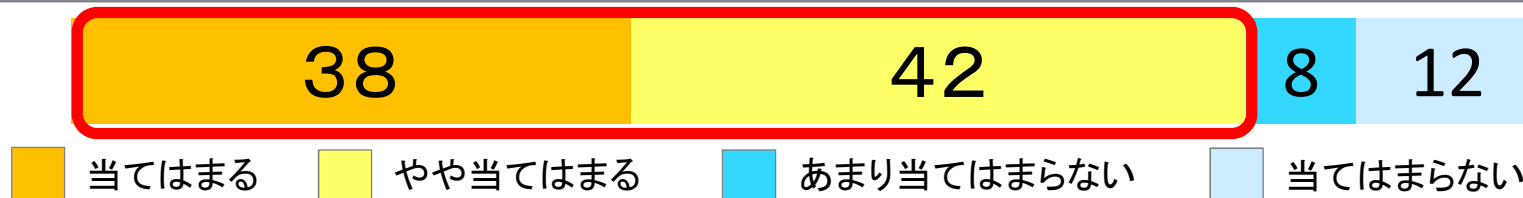
指導者が支援を見直す

分かりやすい指導へ

## 必佐小学校指導者アンケート

(調査時期 2月 対象26名 数字は%)

発達障害や個々の児童の特性に応じて、指導を工夫するようになりましたか



### <肯定的な評価を選んだ場合の具体的な工夫>

- ・口頭の説明では理解できなかったり、自信が持てなくて活動できなかったりしてしまうことが多いため、可能な限り黒板に指示を書き残すようにした。支援の必要のない児童に対しても効果があったため、今後も必要だと感じた。
- ・アドバイザーの助言によって、学習課題の提示後は子どもたちが考える時間にしました。すると、わからない子たちは級友と話をするようになった。級友と話をすることに抵抗がある子は指導者に質問してくるようになった。そのときに、できるかぎり級友と話をしよう指示はしている。
- ・その子に今足りないものや必要に感じていることを想像して、接するようになりました。単に叱るだけでなく、受け止められるところでしっかり受け止め、その子なりの努力を認めるようにしていきました。

指導の工夫

## 必佐小学校指導者アンケート（抜粋）

（調査時期 2月 対象26名）

- ・自ら学習を進めたり交流学級へ学習に出かけたりすることができるようになった。これは、子どもに合った学習内容を提示して、できる自信がついたから。これができることで、どんどん自ら学習が進められるようになり、できる喜び・分かる喜びが味わえた。そして、力がつくことで丁寧にできるようにもなってきた。また、ここで自信が持てたことで安心感が得られ、交流学習に参加できる力にもなったと考えている。
- ・6年生についても、授業内でのつぶやきが増えてきて、笑顔が増えてきている。自分から授業に参加していこうとする姿勢が高まっていると感じている。授業内でグループ学習やペア学習をとるようにしていくと、子どもたちの発言が多くなってきた。教師がグループの中に入って一緒に考えを聞いたり、こっちが話したりしていく中で、それがクラスという単位でも出してくるようになってきたのかなと考えている。
- ・自分の考えや振り返りを自分の言葉で数行書けるようになった。算数では、言葉・図・絵など何かかいていたら、全体に紹介→「自分もできそう、これでいいんだ」につなげる。振り返りの視点を与える、前時よかった（よく自分振り返りを詳しく書いていた）ものを紹介する。
- ・全校で体育館にあつまった時（始業式・防犯教室・人権集会など）静かに座って話を聞けるようになった。

自尊感情の高まり

・発達障害を的確に理解し、その**特性に応じた指導の充実**を図る

・授業のユニバーサルデザイン化により、**分かりやすい授業への改善**を目指す



＜今後に向けて＞

特性に応じた指導のさらなる充実

広く町内に啓発

ICT機器の活用



最後に



すべての児童生徒の  
学びのために！